ＫＳＫＰ
連盟ニュース　No.15

特定非営利活動法人尼崎市身体障害者連盟福祉協会

一九八四年八月二十日　第三郵便物認可（毎日発行）
二〇〇九年十二月二十八日　ＫＳＫＰ通巻八四六九号

巻頭言 - この一年を振り返って -

ＮＰＯ法人尼崎市身体障害者連盟福祉協会　理事長　伊東勇

この１年を振り返ってみると、自公政権から民主党が中心とした連立政権に変わりました。しかし、私たち障害者にとって、強く希望している自立支援法の改正案が見えてきません。重度の障害者ほど負担が大きくなる応益負担制度から応能負担制度に改正していくべきと思います。

兵庫県が実施している福祉医療制度でも、一部負担金が増額して、生活がだんだん苦しくなっています。これ以上の増額は許さないでほしい。そして、安心して必要な医療が受けられるようにしてほしい。私たちはもっともっと積極的集会などに参加して、広く現状を訴えて理解を求めていく努力は必要ではないでしょうか。

また、多くの障害者も通院している県立塚口病院の廃院案が出ていますが、車イスなどの重度障害者が安心して通院することが出来る病院がなくなることで、安心して医療を受けることが出来なくなることが心配されます。そこで廃院ではなく、機能を充実させ存続させる運動にも積極的に参加したいと思っています。

また、多くの障害者の仲間が通う小規模作業所の将来への不安が出ています。安心して通う小規模作業所になるように必要な援助をして頂くように運動にも、これからも尼崎市内障害者関連団体連絡会を通じて参加していきます。

市に対しては、支援費の移動支援の上限を国なみの１／４にしてほしいと要望してきましたが残念ながら実現出来ていません。聴力障害者の社会参加に対する手話通訳者派遣を規制する動きに対しては許すことができません。　また、市障害者計画でも、市外にある市立尼崎養護学校の市内移転させることを計画の中に入れることを障害者側委員は強く要求しましたが、教育委員会が強く難色を示したために実施期間を決めず入れることになりました。障害のある児童・生徒が、体力的な負担をかけて市外の学校に５０年間以上通学させてきた事実を市教育委員会は深く反省をして早期に市内移転を実現させるために訴えていきたい。(次ページへ)

就労支援や相談支援などの部会でも障害者側委員はよくがんばっていますが、まだまだ、私たちの願いとは大きな開きがあり問題を残しています。

市の市民福祉のつどいや市の障害者スポーツ大会にも実行委員を出し積極的に取り組みを行いました。

市民懇話会や福祉推進会議や社会保障審議会などに委員を連盟として出してきました。

また、先日 NHK 教育テレビの特集番組で、障害者の避難訓練を市の防災計画には入れ、障害者など災害弱者の支援をしている様子が放映していました。

前にも市の防災課との話合いをしましたが、個人保護法があるから難しいとのことでしたが、その席で私たちの方から支援項については登録をしてもらうことも提案しましたが、市は積極的ではありませんでした。

来年は、私たちの方から積極的に取り組みを働きかける必要があります。

今年　連盟としては担当者の努力もあり、映画会を２回開催、コンサートを開催したりなど楽しい行事を実施しました。

尼崎市内障害者関連団体連絡会では、尼崎市から選出の田中康男代議士を身障会館にお招きして私たちの意見を聞いて頂きました。国会議員を身障会館にお招きして私たちの意見を聞いて頂きましたのは、私の記憶では初めてのことで本当に良かったと思いました。

来年もみなさんのお力をお借りしてがんばりますのでよろしくお願いします。

田中康夫国会議員との懇話会　開催！

去る１０月１７日に当協会も参加している市内障害者関連団体連絡会の主催で、この夏の衆議院選挙で尼崎市より立候補し、当選された新党日本代表の田中康夫議員をお招きして懇話会を開催しました。

政権交代が実現し、民主党政権が自立支援法の廃止を打ち出す中、私たち障害者の実情を伝えようとの思いで開催したものです。当日は直前まで雨が振っていたにもかかわらず、約７０名が集まり、会場は熱気であふれていました。

発言した方が一人一人思いを込めて説明する中、田中議員は真剣な顔でメモを取りながら聞いてくださりました。会場からも発言希望が相次ぎ、予定した時間に終わりそうになかったのですが、田中議員のご好意により、全部聞いていただけました。最後には田中議員より尼崎より福祉のモデル事業ができるよう取り組みたい旨の発言がありました。

政権交代もそうでしたが、私たちが声を上げれば政治は変わる、福祉は変えられると元気にさせてくれた懇話会でした。

2009.10.18　毎日新聞

田中康夫衆院議員
「福祉のモデル事業尼崎から」
障害者関連団体の懇話会で

「尼崎市内障害者関連団体連絡会」が地元選出の田中康夫衆院議員を招いた懇話会が17日、同市立身体障害者福祉会館（同市稲葉荘3）であった。政権交代で「障害者自立支援法」を廃止する動きがあるため、実情を訴えようと開催された。障害者や福祉の現場で働く職員ら約70人が参加した。

同法により利用者の1割負担となったことについて、市身体障害者連盟福祉協会の伊東勇理事長は「国民の義務である選挙に行くのにさえヘルパーが必要で、負担がかかる」と訴え、重度の障害をもつ娘の母親は「親が死んだ後、娘がどうやって暮らしていけるのか、とても不安」と話し、ケアホーム建設への補助を求めた。

また介護施設で働く女性は「人間らしく生きられる賃金を保障してほしい」と訴えた。

田中議員は「福祉は、地域分散型でやる必要がある。地元尼崎からモデル事業をやっていきたい」と意欲を示した。

【大沢瑞季】

障害者団体と意見交換する田中康夫衆院議員
＝尼崎市稲葉荘３の市立身体障害者福祉会館で

厚労省へ提言を届けています

田中康夫議員との懇話会を経て、「障害者自立支援法を廃止して新法を作る」とはっきり打ち出した厚生労働省及び政府関係者へ、３年半苦しい運動を続けてきた尼崎の障害者団体として、次のような提言書をまとめいろいろなルートを通じて届けています。まだ「届いた」という実感はありませんが、１２／８「障がい者制度改革推進本部を内閣に置き、その委員半数を障害者当事者団体より入れる」と発表された今こそ、私たちの具体的な提言を実現させたいものです。

「障害者自立支援法に代わる新しい法律に盛り込んでいただきたい項目
3 年半の尼崎の障害者運動から

尼崎市内障害者関連団体連絡会

１．応益負担を廃止し、本人の所得に応じた利用料とする。家族や配偶者の所得によらず、障害者本人が非課税（均等割税のみを含む）であれば費用負担をゼロとする。
２．報酬単価の日割り計算を廃止し、月ごとにする。
３．すべての地域生活支援事業を国の補助事業と位置づけ、国 1/2、県 1/4、市 1/4 の負担率とする。
４．法外施設としての「障害者小規模作業所」、支援法移行施設「地域活動支援センターⅠ～Ⅲ型」といった分類わけをなくし、定員を 5 名以上とした法内施設として国の補助事業と位置づけ、国 1/2、県 1/4、市 1/4 の負担率とする。
５．障害者の地域居住生活に必要なケアホーム・グループホームが安全に運営できる補助費を支給する
６．新法で、障害者が自立して生活できる所得保障をする。さし当たっての施策としては障害基礎年金の増額をする。長期的には、これまで国は、作業所や施設での障害者の就労を「福祉的就労」として最低賃金以下の状態のままを放置してきましたが、企業への就労だけでなく、これまでの福祉的就労を労働基準法にいう労働と位置づけ賃金補助を行い、障害者の人格尊厳へつなげてください。
７．低賃金・強労働の福祉労働者の賃金を上げるため、報酬単価の引き上げ、事務経費の加算を行う。
ただし障害者の負担増へ跳ね返る１割負担は直ちに廃止してください。

出前講座が開かれました

11/18 に「あまがさき行財政構造改革プラン平成２２年度（素案）」が発表されました。「現在の財政状況は、昨年来の経済不況の影響を受け、法人市民税等の急激な落ち込みや生活保護費をはじめとする扶助費の増加、国・県等の各種改革の影響等により、収支不足をきたしている。構造改善を早急に推し進め、『歳入の一般財源に見合った事業規模へ縮小』していく必要がある。」と書かれ、21 年度から 25 年度まで差引収支が、21 億～ 126 億という大幅の赤字が試算されています。

こうした財政の仕組みを私たちも学習しておかねばならないと、12/4 に身障会館で、企画財政局財政担当から来ていただいて「尼崎市尼崎市の予算の仕組みと財政の現状　障害者福祉の財政の仕組み」と題して「出前講座」を障害者団体連絡会主催で開きました。

当日は 31 名の参加者で、担当者より数字のびっしり詰まった資料を基に「平成 20 年度の決算の詳しい内容」「崖っぷちに来ている尼崎市の財政」「障害者福祉事業の国・県・市の負担割合」などを説明していただきました。よく分かる説明で、「これまで知らなかった予算の仕組みが少し分かった」ととても好評でした。

こうした中で「公共事業の多額さ」「塩漬けの土地価格の高額さ」「公債費（借金償還）の高額さ」に質問が及ぶと、担当者も苦しい説明が続きました。

その中で、この財政節減の方法として今後「市単独事業の休廃止」が説明され、障害者福祉施策の多くに節減の波が押し寄せそうな気配が感じられ。会場から「それだけはやめて」という悲鳴にも似た声が上がりました。

たとえば現在 40 ヶ所ほどある小規模作業所には、１ヶ所あたり 110 万円くらいの家賃補助などの「尼崎市単独補助金」が出されているのですが、その総額 4400 万円ほどが担当者から数字として上がりました。1 ヶ所あたり 700 ～ 800 万円ほどの補助で運営しているのですが、これだけの補助で常勤職員 2 名を雇用し、時間給スタッフや諸費用を出さねばなりません。どこの作業所も親や責任者が自己負担を積み重ね、バザー収入を積み重ねてようやく運営しています。

何も補助がなかった時代から、ようやく運動を重ねて補助を積み重ねてきたギリギリの運営をこれ以上苦しめないでほしい、削るなら今日の決算内訳にあるような大口の何億円というところを削ってほしい、そんな必死の気持ちでがんばってやってほしい、と出前講座を終了しました。

このような削減の動きは他にも起きており、野球の審判研修会へ参加するため手話通訳者の派遣を依頼したら障害福祉課担当者より「生活に必要な講習会ではないから派遣の対象とはならない」とチェックが入り、そのまま手話通訳者の派遣をうけずに研修会に参加し、

講習の内容がよく理解できなかったということが起こったり、これまで派遣されてきた養護学校通学バス帰着のバス停から作業所への介護者ヘルパー派遣も、「バス停からは派遣できない、いったん家に帰ってからの派遣でないと認められない」と制限がかかっています。

市内障害者関連団体連絡会で話し合い、尼崎市長、経済企画局長、環境福祉局長への要望書を出そうと話し合っています。伊東理事長を中心に尼身連も一緒に運動していきます

稲葉荘文化事業好評！映画会、音楽会…

昨年より 3 障害の受け持ちで稲葉荘文化事業を展開してきました。今年も文化の秋にふさわしく、秋に開催いたしました。

聴力部は 10 月 28 日に映画会を開催しました。題名は「長州ファイブ」明治維新の際、改革の原動力となった伊藤博文ら 5 人がイギリスに密航留学した際の出来事をまとめた映画です。本作では山尾庸三の足跡を主にたどり、ろうの女性との出会いにより、障害者教育の必要性に目覚めたところを描いています。実際、帰国後は工部大学校 (現・東京大学工学部) および日本最初の盲唖学校を設立し、人材育成に取り組みました。

参加者は 20 人ほどでしたが、参加者一同山尾庸三の生き様に感動しながら見ていました。

視力部は 11 月 23 日にミニコンサートを開きました。レインボーチャイムズ演奏によるチャイム演奏、特別支援学校教諭の足立晃一郎先生による手作り楽器演奏とお話がありました。チャイム演奏では視力部女性を中心としたメンバーが「愛のあいさつ」、「サトウキビ畑」など、優しい・美しい演奏を披露してくれました。足立先生は使い古した竹箒、古い水道管、ストローや自転車のベルなど、変わったものを使っての楽器演奏。素材と音との組み合わせに感嘆の声が上がっていました。

参加者は 60 人ほどで、ホールがいっぱいになって楽しい雰囲気で終わりました。

次は 1 月に肢体部が舞台芸術会を開催します。是非ともみなさまお誘いあわせてご参加ください。詳細は肢体部までお願いします。

タンデム自転車を楽しむ会開かれる

県内に兵庫県障害者タンデムサイクリング協会というものがあります。毎年秋に武庫川でタンデムサイクリングを楽しむ会を開いており、今年で 12 回目になります。

連盟はタンデム自転車の保管場所の確保にあたり、名義を貸し出したことで縁ができました。もっとも、視力部が以前から関わっていたようでした。

連盟役員のところにも 11 月 1 日開催の招待状が届き、見に行ってきました。

集合場所に着くとたくさんの人だかりが。主催者あいさつの後、準備体操を終え、次々にタンデム自転車に乗って武庫川のサイクリングロードを走り出していきました。どの顔もいきいきと楽しそうです。

タンデム自転車とは、二人乗り自転車の総称で、先頭はパイロットという健常者に任せ、後ろに障害者などが乗ります。方向はパイロットが決めますが、自転車のペダルは一緒になってこがないといけません。試しに二人で乗ってみたのですが、一緒になってこぐのは結構慣れがいります。障害者が後ろになるタイプだけでなく、前に障害者が乗れるようにしたタイプもありました。これは参加者の自作だそうで、溶接の後がはっきりわかりました。手でこぐタイプもあり、本当にいろいろな自転車がありました。

聞いたところ、公道でこのタンデム自転車に乗れるかどうかについては各県で微妙な違いがあり、ある県などは後輪が 2 輪でないと認められないとか。その割には 2 輪の距離に関しては細かい規定がないようで、会場で見たタンデム自転車はほとんど 1 輪と変わらないものでした。

サイクリングを一通り終えると、主催者が用意した焼きそばやおにぎりを美味しそうにほおばりながら交流していました。雰囲気がとてもよいので、連盟でもこういうわいわいと賑やかな交流ができる行事を是非やりたいものだと思いました。

連盟主催映画会　開催！

12 月 5 日、すこやかプラザにて連盟レクレーション事業として初めての行事を開催しました。いろいろ討議した結果、今年度に関しては映画会とすることにしたものです。

内容は「4 分の 1 の奇跡～本当のことだから～」というものです。素人監督の初めてのドキュメンタリー映画で、ある養護学校教諭が関わった障害者の生き様をもとに「みんなが違って当然」「みんな一人一人が大切な存在なんだ」という視点で描かれています。

障害を持ってもそれを引け目にすることなく、むしろそうなったことに感謝しているという人。障害を持ったおかげでいろいろなことを知ることもできたし、すばらしい人と会えたというのが、その理由でした。私たち障害者は何かあるとマイナスに考えがちですが、こういうプラスの思考を持つことも大事なんだと思わされます。

タイトルの 4 分の 1 についてですが、過去から人類はペストやエイズなど様々な病気に襲われてきました。そのときに助かったのはいわゆる遺伝子異常の人たち。その人たちがいたおかげで血清や治療法などが開発され、今に至っているのだと。これにはびっくりしました。バイオテクノロジーの第一人者が映画の中で語っていました。これを聞くと優生保護なんて考えがいかにばかげたものかわかるというものです。

この映画はドキュメンタリーとしては是非おすすめしたい内容だと思います。自主上映を全国に呼びかけているということですので、興味のある方は次のホームページにアクセスしてみてください。

http://www.yobunnoichi.net/

【連盟事務局より】

この「連盟ニュース」は当連盟加盟団体の名簿に基づいて郵送されています。住所などが変わった方は肢体部、視力部、聴力部の事務局担当者までお知らせください。

【発行人】　関西障害者定期刊行物協会
大阪市城東区中浜２－２０－１３　緑橋グリーンハイツアド企画気付
【編集人】　特定非営利活動法人尼崎身体障害者連盟福祉協会
理事長　伊東　勇
尼崎市稲葉荘３－９－２６　尼崎市立身体障害者福祉会館内
【頒　価】　１００円

一九八四年八月二十日　第三郵便物認可（毎日発行）
二〇〇九年十二月二十八日　ＫＳＫＰ通巻八四六九号